

中路融人画伯■プロフィール

1933年、京都市生まれ。54年、「農鳥社」に入会し山口華楊画伯に師事。56年、「残照」で日展に初入選。75年、長浜市室町の風景を描いた「冬田」で日展二度目の特選。79年、日展審査員。京都・東京・長浜で「湖北を描く」といって、海津大崎の桜の絵を出品しておられますね。

中路 桜を上から描いてみようと思いましてね。うしろの山の中腹まで登つて、苦労してスケッチしたんです。桜の向こうにびわ湖が広がり、その奥に葛籠尾崎の半島が連なつてます。うしろの山の中腹には、この絵にはないけれど、竹生島が浮かんでいます。四曲の屏風にするために描いた習作で、そのうちの二曲の絵です。

長田 四枚の絵が全部仕上がるごとに、壮観でしょですね。以前、文化庁がお買上げになった日展出品作の桜の絵も感

たが、最近は人が多く激いたしました。

中路 海津大崎の桜は、いいですね。いままでに何枚も描きましたが、最近は人が多く

自然や人の心を取り込み凝縮させて無心で描くのです。

なかじゅうじん

中路融人画伯／湖北の風景を語る

六月初旬、京都大丸で農鳥社展が開かれた。今年五十三回目を迎える歴史のある展覧会である。農鳥社は、故山口華揚画伯が結成した日本画のグループで、現在中路融人画伯が会長を務める。中路画伯といえば、ハンノキや伊吹山、余呉湖などを描いた湖北の風景画が目に浮かぶ。

長浜市の博物館通りで洋品店を経営する長田謙治さんは、中路画伯の大ファン。画伯の若いころから親父が深く、恒例の農鳥社展をはじめ、個展や日展には欠かさず足を運ぶという。

展覧会の会場で、お一人に湖北の風景の魅力や最近の作品などについて語っていただいた。



■プロフィール

1930年、近江町長沢生まれ。長浜市の中心商店街でレナウンショップ・ナガタを経営。絵画、書道、茶道、邦楽、語曲など、日本の伝統的な文化に造詣が深い。中路融人画伯の大ファンで、グループ展や個展、日展には欠かさず奥さんとともに通う。



「湖畔」

●鳥のように自然を求めて湖北へ

長田 第五十三回農鳥社展の開催、誠におめでとうございます。先生は、今回もすばらしい海津大崎の桜の絵を出品しておられますね。

中路 桜を上から描いてみようと思いまして

ね。うしろの山の中腹まで登つて、苦労して

スケッチしたんです。

桜の向こうにびわ湖が

広がり、その奥に葛籠尾崎の半島が連なつてます。うしろの山の中腹には、この絵にはないけれど、竹生島が浮かんでいます。四曲の屏風

にするために描いた習

作で、そのうちの二曲

の絵です。

長田 四枚の絵が全部

仕上がると、壯觀でし

ょですね。以前、文化庁

がお買上げになった日

展出品作の桜の絵も感

たが、最近は人が多く

激いたしました。

中路 海津大崎の桜

は、いいですね。いま

までに何枚も描きましたが、最近は人が多く

激いたしました。

長田 湖北のハンノキも、ほとんどなくなつてしましました。

中路 憐しいですね。以前の良さを知つて

いるだけに寂しいですよ。時代の流れは仕方

ないが、ほ場整備で全部を伐つてしまうこと

はなかつた。残すところがあつてもよかつた。

そういう頑固な人がいてもいいと思うんです。

が。

中路 高月町にある医院の安井甚蔵さんが、

わたしのハンノキの絵を町の図書館に寄付さ

れました。安井さんが「今も柳野にハン

ノキが十本ほど残っています」と言われたの

で、絶対に伐つたらダメですよ、と話してい

湖国の小さな美術館めぐり

『淡海の博物館』(サンライズ出版)を繰ってみると、滋賀にもなかなか個性的な美術館があるものだ。このなかから、小さいけれど魅力的な美術館を訪ねてみた。

奇抜な建物で楽しむ 幅広いコレクション

日登美術館(永源寺町)



日登美術館(水道寺町)

日登美術館(水道寺町)
神崎郡永源寺町山上 2083
開館時間 10:00~17:00
休館日 年末年始を除いて年中無休
入館料 小学生以下 400円
問合先 Tel. 0748-271707
Fax. 0748-271950
アクセス JR近江鉄道八日市駅から車で10分
バス八日市インターから車で10分

美術館とは縁が遠いところ、と言つたら失礼だろうか。神崎郡永源寺町は、湖東地区で最も山深くどちらかというと「過疎の村」の雰囲気で人口も減り続けている。そんなところに私設の「日登美術館」があるのだから、まず驚いてしまう。

美術館はどんなにがんばっても、いや、良い作品を集めてしまう。しかし、良い作品を集めたからといって、いい作品を売ることはない。そこで、美術館は、どうしていいの? それは、美術館は、どうしていいの? それは、美術館は、どうしていいの?

展示の主流は東西文化の融合を陶芸で試みたバーナード・リーチ(一八八七~一九七九)の焼き物だが、もとになったデッサンも併せて並んでいる。ギリス人のリーチは、弁護士だった父に連れられ、幼いころ彦根に住んでいたから、滋賀県にもご縁がある人だ。

リーチの作品の他にも、コレクションは、唐三彩などの中国磁器、廣重などの浮世絵、棟方志功の書画、ホアン・ミロの版画など幅広い。建物は三重県四日市に通じる国道四二二号線沿い。少し奇抜な外観だからすぐわかるはずだ。美術館のすぐお隣は、ワイン工場「ヒトリマワイナリー」の直売所で、自家製のワイン「美術館」もここで売っている。

▲陶芸、磁器、浮世絵など幅広いコレクション

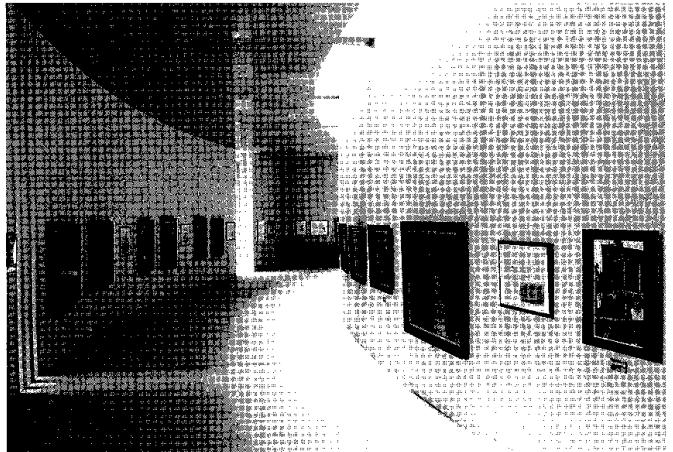
自然光で見る世界は 安藤忠雄の設計

「赤い帽子 織田廣喜ミュージアム」(日野町)

日野町と滋賀県、農協(J-A)でつくった第三セクター・滋賀農業公園「ブルーメの丘」を訪れた人も多いことだろう。テーマパークの多くが苦境に立たされ、いく

つも閉鎖しているのに、ここはけつこうがんばっているようだ。ヨーロッパの農村風景を真似た建物が連なるなかに、あたりと少し異質な空間がある。それが織田廣喜ミュージアム。赤い帽子をかぶった少女の絵で知られる日本芸術院会員・織田廣喜さん(一九一四年福岡県生まれ)の作品を集めた小さな美術館だ。ゴールデン・ウイークなどの最盛期には少し混み合うが、ふだんはとても静かな雰囲気に包まれている。コンクリート打ちっぱなしの外壁が、小さな池を取り囲むように曲線を描いている。世界的有名な建築家・安藤忠雄さんの設計だけに、建築を専攻する学生さんたちがよく訪れる、と受付の方に教えていただいた。

「自然光で描いた画家の作品は、自然光で見ても、自然光だけで作品を展示、鑑賞することになつていい。」といふ安藤さんの考え方により、自然光だけで作品を展示、鑑賞することになつていい。自然光で描いた画家の作品は、自然光で見ても、自然光だけで作品を展示、鑑賞することになつていい。そんなわけで、日没



▲自然光に照らされた館内は落ち着く雰囲気

「自然光で描いた画家の作品は、自然光で見ても、自然光だけで作品を展示、鑑賞することになつていい。」といふ安藤さんの考え方により、自然光だけで作品を展示、鑑賞することになつていい。自然光で描いた画家の作品は、自然光で見ても、自然光だけで作品を展示、鑑賞することになつていい。そんなわけで、日没



▲安藤忠雄設計。建菜を学ぶ学生も訪れるとか

「赤い帽子 織田廣喜ミュージアム」(日野町)
蒲生郡日野町西大路864-5「ブルースの丘内」
開館時間 9:00~17:00~日没
休館日 12月~2月は10:00~日没
料金 一般 500円 中高生200円
身障者200円
問い合わせ Tel. 0748-528131
Fax. 0748-528131
アクセス JR近江八幡駅から近江鉄道八八五分で徒歩10分、近江八幡駅から車で20分



▲ワインは試飲もできます

澤田耳鼻咽喉科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	/	○	○
午後 3:00~6:30	○	○	○	○	○	○

休診日
木曜・日曜・祝日



院長 澤田 泉
長浜市紙園町130-5
TEL (0749) 65-3387